

2mの小滝。直登する。この上もナメが続く。小滝2つを越えてゆくと、水量は少しだが、沢自体の感じは大きい小沢が合流している。まもなく8mのナメ滝。左側を直登。和泉さんがスリップして5mほどすべり台のように滑り止まる。すかさずわきにどいて見殺しにする。少しすりむいた程度。油断をしているとこういうこともある。もっとも、ここはわざとすべってみたい気さえおこしかねないような所である。すぐ上の小滝は何なくパスする。右岸から水量の少ない小沢が合流した所で、出合から続いていたナメも終わる。

沢が大きく左に曲がり、しばらくゆくと、まず右岸、続いて左岸にガレ場が出てくる。こんな所が何でくずれているんだろうと考えながら近づくと、何と林道工事をしているではないか。押し出された土砂で沢がうまり、「ズボ」とぬかる。ヒザから下はもうドロがけである。

いったん林道に上がり、再び沢にもどって昼食。もう水量もずいぶんと少ない。

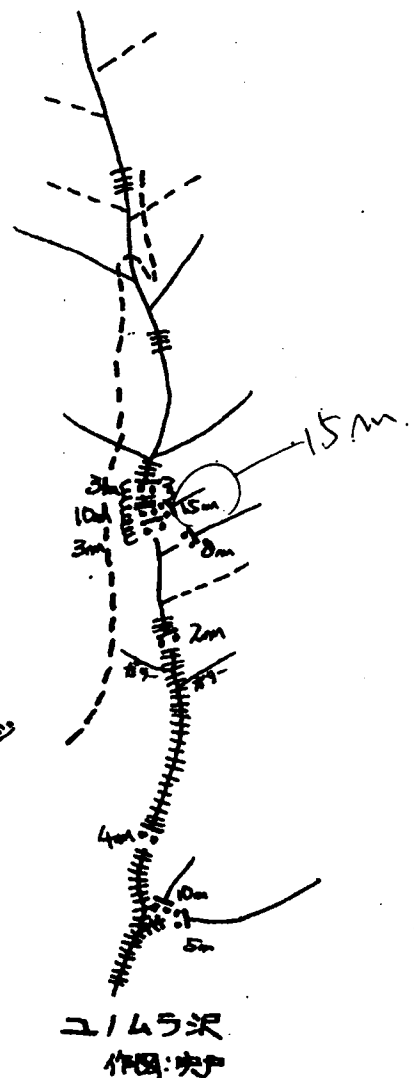
再び歩きはじめる。すぐに7mの滝。左を直登。賑わを出して後続の2人を確保。上はナメ。小滝を越えると沢が逆S字に曲がり、しばらくして2俣となる。左はカレ沢。右に入るがすぐにかれてしまう。左岸にある湧水がこの沢の源のようだ。これで週行終了。下降に移る。 (記

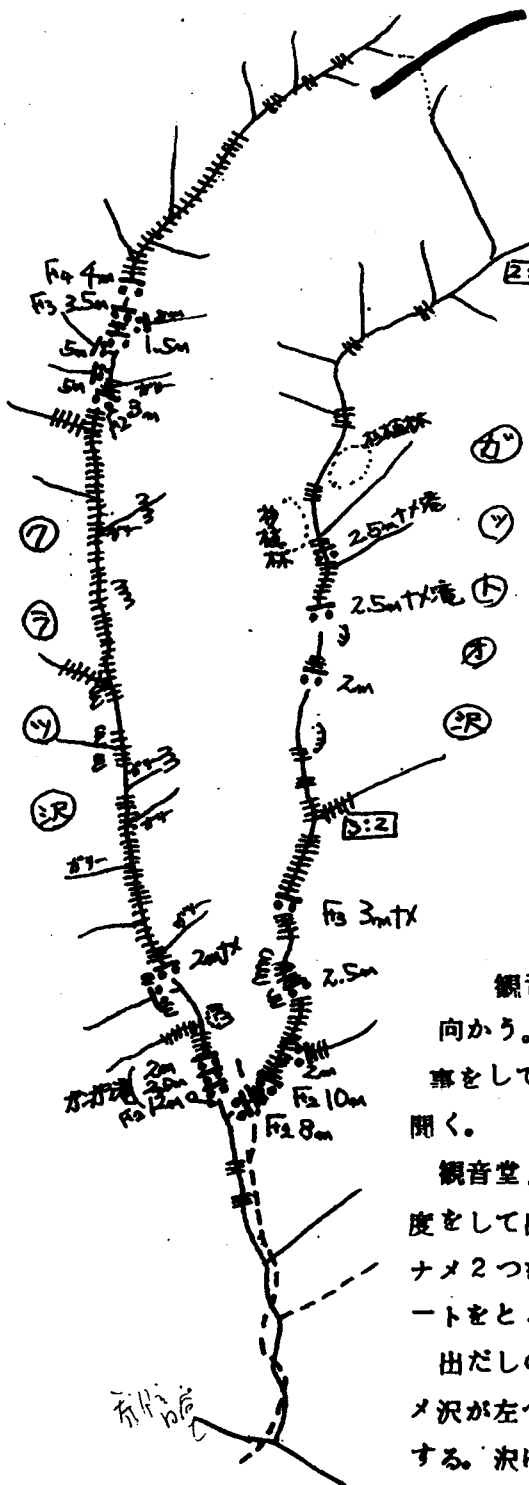
出合(10:25) — 林道(11:30, 11:50) — 終了(12:25)

1982年10月11日
ユノムラ沢 L

カイトキ沢を下降して観音堂沢の本流に下る。ワラジをつけ、ユノムラ沢出合まで進む。途中、至る所でイワナの姿を見た。それも20cmクラスである。今は禁漁期間であり、イワナの方でも安心して姿を見せてくれるのだろうか。

ユノムラ沢に入るとすぐに4mの滝があり、右岸を直登。フリクションをきかせて登る。しばらくナメが続く。観音堂沢の流域は全体にナメが多いところの





ようである。

小滝を越えてゆくと左岸よりカレ沢が入る。上に8mの滝が見えている。ガレ場が出てくると本流の方にも滝が出てくる。まず3mの滝があり、その上で左岸から15mの滝をつけた小沢が入ってくる。そして10mの滝。右岸を直登する。その上の3mは何なくパス。ここがこの沢の核心部だ。

沢が平凡になった。しばらく進むと踏跡が沢を横切っている。ここでマタタビをとる。秋の沢登りにはこういった楽しみもある。

カレ沢が4つ次々と合流し、沢が平坦になって水量も少なくなってきた。ここで廻行を打ち切る。 (記・

出合(10:15)——終了(11:20)

1982年9月15日

ガットオ沢

L:

観音堂沢沿いの林道を歩いて観音堂(廃村)に向かう。途中台風のためこわれたこの林道の復旧工事をしてた人たちから、ここらあたりの沢の様子を聞く。

観音堂より田んぼの中の道を通り沢に降りる。身仕度をして出発。沢の左岸ぞいには踏跡がある。小さなナメ2つを過ぎ、二俣に着く。右俣(ガットオ沢)にルートをとる。

出だしのF1 8mは左岸を直登。続いて傾斜のあるナメ沢が左へ曲がる所にF2 10m。こちらは右岸を直登する。沢はナメが続く。左岸より小沢が2mの滝とな